

平成21年3月期 第3四半期決算短信

平成21年1月28日

上場取引所 JQ

上場会社名 株式会社 セガトイズ

コード番号 7842 URL <http://www.segatoys.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 國分 功

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 山重 佳治

TEL 03-5822-6244

四半期報告書提出予定日 平成21年2月10日

(百万円未満切捨て)

1. 平成21年3月期第3四半期の連結業績(平成20年4月1日～平成20年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年3月期第3四半期	15,083	—	219	—	121	—	109	—
20年3月期第3四半期	13,513	7.7	△369	—	△358	—	△427	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
21年3月期第3四半期	5.11	—
20年3月期第3四半期	△19.90	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
21年3月期第3四半期	7,379	3,541	47.8	163.89
20年3月期	6,736	3,415	50.6	158.75

(参考) 自己資本 21年3月期第3四半期 3,529百万円 20年3月期 3,411百万円

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
20年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
21年3月期	—	0.00	—	—	—
21年3月期(予想)	—	—	—	5.00	5.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成21年3月期の連結業績予想(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	17,800	5.8	422	—	400	—	350	—	16.29

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注) 詳細は、3ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 有

(注) 詳細は、3ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 21年3月期第3四半期 21,536,100株 20年3月期 21,491,100株

② 期末自己株式数 21年3月期第3四半期 一株 20年3月期 一株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 21年3月期第3四半期 21,521,373株 20年3月期第3四半期 21,485,409株

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 業績の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係わる本資料の発表日現在における仮定を前提としております。実際の業績等は、経済情勢、市場動向など様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

2. 当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、米国のサブプライムローン問題に端を発した世界的な金融不安が実体経済にも波及し、設備投資の抑制や生産の減少により景気は急速に悪化しております。また、急激に雇用・所得環境の厳しさが増す中で個人消費の落ち込みも一段と鮮明となり、景気後退の影響が企業から家計に及ぶなど非常に厳しい状況が続いております。

このような状況の中、当社グループは、当社の強みであるデジタル技術の活用や他社とのアライアンスだけでなく、従来の玩具の枠にとらわれない独創性を活かした商品開発により、新しい市場の開拓やグローバル展開の強化に取り組んでまいりました。

海外市場におきましては、景気低迷の中、男児キャラクター玩具「爆丸(BAKUGAN)」が米国でのヒットを維持し、欧州を含む世界展開を本格的にスタートさせたことにより、売上高を大きく伸ばすことができました。

一方、国内市場におきましては、個人消費の買い控え傾向に拍車がかかるなど引き続き厳しい状況が続いております。クッキングトイとして話題となった「くるりんアイスクリン」や、子供向けペット玩具の「さかだちラッキー」、株式会社サンリオとの共同開発キャラクターである「ジュエルペット」等の新製品を投入し、また、「ホームスター」シリーズの定番化にも努めましたが、前年好調であった高額製品「逸品モノ」シリーズ、男児キャラクター玩具、子会社である株式会社タイヨーのラジオコントロールトイ等の売上の落ち込みをカバーすることができず、売上高で前年を大きく下回る結果となりました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間における連結業績は、売上高15,083百万円(前年同期比11.6%増)、営業利益219百万円(前年同期は営業損失369百万円)、経常利益121百万円(前年同期は経常損失358百万円)、四半期純利益109百万円(前年同期は四半期純損失427百万円)となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

①資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末の総資産は前期末に比べ643百万円増加し、7,379百万円となりました。主な要因は、たな卸資産が193百万円減少し、有価証券の償還が500百万円ありましたが、受取手形及び売掛金が2,057百万円増加したこと等です。

負債は、前期末に比べ516百万円増加し、3,837百万円となりました。主な要因は、短期借入金を400百万円返済し、社債を600百万円償還いたしましたが、支払手形及び買掛金が322百万円増加し、新たに社債を950百万円発行したこと等です。

純資産は、前期末に比べ126百万円増加し、3,541百万円となりました。主な要因は、四半期純利益を109百万円を計上したこと等です。

②キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、営業活動により914百万円、投資活動により128百万円、財務活動により10百万円の資金を使用した結果、第2四半期連結会計期間末比939百万円減少し、709百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結会計期間における営業活動の結果、使用した資金は914百万円となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益134百万円、減価償却費146百万円を計上しましたが、仕入債務が674百万円減少し、売上債権が404百万円増加したこと等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結会計期間における投資活動の結果、使用した資金は128百万円となりました。これは主に、有形固定資産の取得(主に金型)による支出113百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結会計期間における財務活動の結果、使用した資金は10百万円となりました。これは主に、社債の償還による支出10百万円によるものであります。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

平成21年3月期の通期業績予想につきましては、第3四半期の実績を踏まえ第4四半期の見通しを精査中であり、見通しが確定次第すみやかに公表させていただく予定です。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

①一般債権の貸倒見積高の算定方法

当第3四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定しております。

②棚卸資産の評価方法

当第3四半期連結会計期間末の棚卸高の算出に関しましては、実地棚卸を省略し、当第2四半期連結会計期間末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算出する方法によっております。

③固定資産の減価償却費の算定方法

固定資産の減価償却費の算定方法については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

④繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるので、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

①四半期財務諸表に関する会計基準の適用

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

②棚卸資産の評価基準及び評価方法の変更

「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号)を第1四半期連結会計期間から適用し、評価基準については、原価法から原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)に変更しております。

この結果、従来の方法によった場合に比べて、当第3四半期連結累計期間の売上総利益、営業利益、経常利益、税金等調整前四半期純利益は186百万円減少しております。

③リース取引に関する会計基準の適用

所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来、賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっておりましたが、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号)及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号)が平成20年4月1日以後開始する連結会計年度に係る四半期連結財務諸表から適用することができることになったことに伴い、平成20年4月1日以降にリース取引開始となる契約からこれらの会計基準等を適用し、通常の売買取引に係る会計処理によっております。また、所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産の減価償却の方法については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。なお、リース取引開始日が適用初年度前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借に係る方法に準じた会計処理を引き続き採用しております。これに伴う損益に与える影響はありません。

5. 【四半期連結財務諸表】
(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	715,950	1,607,926
受取手形及び売掛金	4,151,775	2,094,131
商品	427	600
製品	970,624	1,176,511
原材料	113,174	99,067
仕掛品	20,997	21,701
貯蔵品	6,849	7,804
繰延税金資産	78,124	86,880
その他	390,128	692,757
貸倒引当金	△7,456	△3,729
流動資産合計	6,440,597	5,783,650
固定資産		
有形固定資産	442,847	472,116
無形固定資産		
のれん	109,626	134,924
その他	68,562	58,093
無形固定資産合計	178,189	193,018
投資その他の資産		
繰延税金資産	47,177	47,625
その他	267,307	242,766
貸倒引当金	△26,571	△16,465
投資その他の資産合計	287,913	273,926
固定資産合計	908,950	939,061
繰延資産	29,941	13,701
資産合計	7,379,489	6,736,413
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,412,069	1,089,299
短期借入金	30,000	430,000
1年内償還予定の社債	231,000	716,000
未払法人税等	1,414	17,502
その他	844,668	589,590
流動負債合計	2,519,152	2,842,393
固定負債		
社債	1,303,500	469,000
その他	15,063	9,500
固定負債合計	1,318,563	478,500
負債合計	3,837,715	3,320,893

株式会社セガトイズ(7842) 平成21年3月期 第3四半期決算短信
(単位:千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,735,684	1,729,924
資本剰余金	1,755,785	1,750,070
利益剰余金	45,799	△64,163
株主資本合計	3,537,269	3,415,830
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△270	△284
為替換算調整勘定	△7,521	△3,913
評価・換算差額等合計	△7,792	△4,198
新株予約権	12,078	—
少数株主持分	219	3,887
純資産合計	3,541,773	3,415,520
負債純資産合計	7,379,489	6,736,413

(2)【四半期連結損益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)
売上高	15,083,397
売上原価	11,662,402
売上総利益	3,420,995
販売費及び一般管理費	3,201,827
営業利益	219,168
営業外収益	
受取利息	1,670
投資事業組合運用益	15,007
その他	7,246
営業外収益合計	23,924
営業外費用	
支払利息	11,807
支払保証料	6,732
為替差損	92,187
その他	10,449
営業外費用合計	121,176
経常利益	121,916
税金等調整前四半期純利益	121,916
法人税、住民税及び事業税	6,172
法人税等調整額	9,203
法人税等合計	15,375
少数株主損失(△)	△3,422
四半期純利益	109,963

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

当第3四半期連結累計期間
 (自平成20年4月1日
 至平成20年12月31日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	121,916
減価償却費	370,288
のれん償却額	25,298
貸倒引当金の増減額(△は減少)	13,832
受取利息及び受取配当金	△1,694
支払利息	11,807
為替差損益(△は益)	△97,756
売上債権の増減額(△は増加)	△2,067,749
たな卸資産の増減額(△は増加)	193,610
仕入債務の増減額(△は減少)	322,769
未払費用の増減額(△は減少)	60,023
その他	53,380
小計	△994,272
利息及び配当金の受取額	8,186
利息の支払額	△7,356
法人税等の支払額	△34,536
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,027,979
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有価証券の償還による収入	500,000
有形固定資産の取得による支出	△334,743
無形固定資産の取得による支出	△33,397
その他	1,302
投資活動によるキャッシュ・フロー	133,161
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の返済による支出	△400,000
長期借入金の返済による支出	△30,000
社債の発行による収入	929,299
社債の償還による支出	△600,500
株式の発行による収入	11,229
リース債務の返済による支出	△1,342
配当金の支払額	△486
財務活動によるキャッシュ・フロー	△91,800
現金及び現金同等物に係る換算差額	94,642
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△891,975
現金及び現金同等物の期首残高	1,601,003
現金及び現金同等物の四半期末残高	709,027

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

当第3四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)

当社連結グループは、玩具の企画、開発及び販売を主たる事業としておりますが、当該事業の売上高及び営業利益の金額は、全セグメントの売上高の合計及び営業利益の金額の合計額に占める割合が、いずれも90%を超えるため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

【所在地別セグメント情報】

当第3四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)

当社連結グループは、在外子会社が1社存在しますが、当該所在地における売上高の金額は、全セグメントの売上高の合計に占める割合が10%未満であるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

【海外売上高】

当第3四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)

	北米	アジア	ヨーロッパ	その他の地域	計
I 海外売上高(千円)	7,082,063	660,392	819,445	156,423	8,718,325
II 連結売上高(千円)	—	—	—	—	15,083,397
III 連結売上高に占める海外売上高の割合(%)	47.0	4.4	5.4	1.0	57.8

(注)1 地域は、地理的近接度により区分しております。

2 本邦以外の区分に属する地域の主な内訳は次のとおりであります。

- (1) 北米 …… 米国、カナダ
- (2) アジア …… 韓国、台湾、シンガポール
- (3) ヨーロッパ …… イギリス、ドイツ、フランス
- (4) その他の地域 …… オーストラリア

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

「参考」

(1) 第3四半期連結損益計算書

科目	前第3四半期連結累計期間 (自平成19年4月1日 至平成19年12月31日)
	金額(千円)
I 売上高	13,513,903
II 売上原価	10,287,111
売上総利益	3,226,792
III 販売費及び一般管理費	3,596,214
営業損失(△)	△ 369,422
IV 営業外収益	39,627
V 営業外費用	28,860
経常損失(△)	△ 358,656
VI 特別利益	1,479
VII 特別損失	20,884
税金等調整前四半期純損失(△)	△ 378,060
税金費用	49,777
少数株主損失(△)	△ 219
四半期純損失(△)	△ 427,618

(2) 第3四半期連結キャッシュ・フロー計算書

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成19年4月1日 至 平成19年12月31日)
区分	金額(千円)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	
1 税金等調整前四半期純損失(△)	△ 378,060
2 減価償却費	418,549
3 支払利息	18,298
4 売上債権の減少額	△ 1,977,628
5 たな卸資産の増加額	△ 238,972
6 仕入債務の増加額	559,704
7 未払費用の増加額	203,176
8 その他	△ 36,753
小計	△ 1,431,685
9 利息及び配当金の受取額	13,929
10 利息の支払額	△ 14,209
11 法人税等の支払額	△ 112,454
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,544,420
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	
1 有形固定資産の取得による支出	△ 399,963
2 無形固定資産の取得による支出	△ 47,932
3 その他	△ 5,075
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 452,970
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	
1 短期借入金の増加額	2,300,000
2 長期借入金の返済による支出	△ 130,000
3 社債の償還による支出	△ 35,000
4 株式の発行による収入	2,345
5 配当金の支払額	△ 104,723
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,032,622
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	10,589
V 現金及び現金同等物の増加額	45,821
VI 現金及び現金同等物の期首残高	988,327
VII 現金及び現金同等物の期末残高	1,034,148

(3) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成19年4月1日至平成19年12月31日)

当社連結グループは、玩具の企画、開発及び販売を主たる事業としておりますが、当該事業の売上高及び営業利益の金額は、全セグメントの売上高の合計及び営業利益の金額の合計額に占める割合が、いずれも90%を超えるため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

【所在地別セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成19年4月1日至平成19年12月31日)

当社連結グループは、在外子会社が1社存在しますが、当該所在地における売上高の金額は、全セグメントの売上高の合計に占める割合が10%未満であるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

【海外売上高】

前第3四半期連結累計期間(自平成19年4月1日至平成19年12月31日)

	北米	アジア	ヨーロッパ	その他の地域	計
I 海外売上高(千円)	3,195,620	818,857	981,587	1,319	4,997,384
II 連結売上高(千円)	—	—	—	—	13,513,903
III 連結売上高に占める海外売上高の割合(%)	23.6	6.1	7.3	0.0	37.0

(注)1 地域は、地理的近接度により区分しております。

2 本邦以外の区分に属する地域の主な内訳は次のとおりであります。

- (1) 北米 …… 米国、カナダ
- (2) アジア …… 香港、台湾、韓国
- (3) ヨーロッパ …… イギリス、フランス、ドイツ、イタリア
- (4) その他の地域 …… ニュージーランド